

全国手話言語市区長会

手話 劇祭



2019年12月1日(日)

三重県伊勢市

シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢

全国手話言語市区長会手話劇祭実行委員会

開催概要

日時	2019年12月1日(日) 午前の部 9:30～ 午後の部 14:00～		
会場	シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (三重県伊勢市岩渕1丁目13-15)		
目的	全国手話言語市区長会の取り組みとして、手話文化や手話の魅力を広めていくことが大切であり、普段、手話劇等の手話文化に触れる機会が少ない地方都市において手話劇祭を実施し、手話文化の魅力を広めるとともに、自治体の発信のあり方や事業効果を検証する。		
来場者数	810人		
主催	全国手話言語市区長会	主管	全国手話言語市区長会手話劇祭実行委員会
特別協賛	日本財団	特別協力	一般財団法人全日本ろうあ連盟
後援	手話を広める知事の会 社会福祉法人全国手話研修センター 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 一般社団法人日本手話通訳士協会 全日本ろう者演劇協会 一般社団法人三重県聴覚障害者協会 三重県手話サークル連絡協議会 三重県手話通訳問題研究会 全国要約筆記問題研究会三重県支部 三重県要約筆記サークル連絡協議会 三重県難聴・中途失聴者協会 伊勢市 伊勢市教育委員会 社会福祉法人伊勢市社会福祉協議会 伊勢市聴覚障害者福祉協会 いせてらす手話ガイド 伊勢市手話サークル連絡会 学校法人皇學館大学		

タイムスケジュール

< 午前の部 >

9:00	受付・開場
9:30	開会 主催者あいさつ 開催地あいさつ 来賓あいさつ 全国手話言語市区長会の紹介
10:10	オープニングイベント 「手話歌」
10:30	手話劇 「最後の夏まつり」
11:40	記念講演 「手話から始まる新たな出会い」

< 午後の部 >

13:30	受付・開場
14:00	映画上映 「ゆずり葉 -君もまた次のきみへ-」
16:00	閉会

本事業は
日本財団からの
助成を受けて
実施しました。

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

主催者あいさつ



全国手話言語市区長会

会長 **星野 光弘** 富士見市長

皆さんおはようございます。埼玉県富士見市長の星野光弘です。

私は、今年の6月に北海道石狩市の田岡前会長から引き継ぎ、全国手話言語市区長会の会長を務めさせていただいております。よろしく申し上げます。

本日は、全国手話言語市区長会主催の手話劇祭に、多くの皆様にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

当会は「手話は言語である」ことを、さらに多くの皆様に認識していただけるように、手話に対する理解を広く普及するとともに、手話を使う方が安心して日常生活を送ることができる環境を整え、全ての方が共に生きる社会を実現するため、その想いに共感する全国の各市と東京都の特別区の首長が加盟し、平成28年6月に発足いたしました。伊勢市の鈴木市長には当初から副会長を務めていただき、会の運営にご尽力をいただいているところでございます。発足当初は250市区の加盟でありましたが、現在では568市区まで加盟が広がり、全国各地で手話言語に関する認識が浸透していると感じ、大変喜ばしく思っております。

さて、本日開催します手話劇祭は、手話の普及にとどまらず、手話言語から生まれる文化やその魅力に全国各地で触れる機会を設けることをねらいに、全国手話言語市区長会が2017年度から実施しています。1回目は北海道の石狩市、2回目は福島県の郡山市、そして、今回3回目は三重県の伊勢市での開催となりました。

今日は、手話を文化的に理解していただくとともに、聴こえない世界から生まれる世界観や感性に触れていただき、新たな手話の魅力をたくさんの皆さんに知ってもらうことができれば幸いです。

結びにあたり、本日の手話劇祭に特別協力をいただきました「全日本ろうあ連盟」様、また、特別協賛として、本事業に対しご支援くださいました「日本財団」様のお力添えに、この場をお借りしまして、厚く感謝を申し上げます。

手話劇祭を通じまして、手話に対する理解がさらにひろまり、発展されますことを願うとともに、本日お集まりの全ての皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます、あいさつとさせていただきます。

手話劇祭ポスター



祝電・祝文

ありがとうございました

兵庫県芦屋市長	いとう まい 様
京都府長岡京市長	中小路 健吾 様
山口県萩市長	藤道 健二 様
三重県知事	鈴木 英敬 様
福島県郡山市市長	品川 萬里 様
大阪府四条畷市長	東 修平 様
三重県議会議員	中川 正美 様

開催地あいさつ



全国手話言語市区長会

副会長 鈴木 健一 伊勢市長

みなさん、おはようございます。伊勢市長の鈴木でございます。

「第3回全国手話言語市区長会 手話劇祭」の開催にあたりまして、開催地を代表して一言、ご挨拶を申し上げます。本日の手話劇祭には、師走のお忙しい時期にも関わらず、全国各地から、手話に関心をもつ多くの皆様にご参加いただきましたことに、心より感謝申し上げます。また、手話劇祭を、ここ伊勢市において開催できますことを、大変光栄に存じます。

本市においては、手話が「音声言語と対等な言語である」ことを広く市民に広め、手話を言語として普及し、環境を整備し、地域の実態に即した仕組みを構築していくことを目的に、平成27年10月に「伊勢市手話言語条例」を制定し、翌28年4月に施行いたしました。

現在、条例に基づき、様々な取組みを進めているところではございますが、今後も「全日本ろうあ連盟」様をはじめ、「全国手話言語市区長会」に加入している自治体の仲間や関係団体の皆様と、連携交流し、聴覚障がいのある人の、より一層の自立と社会参加を促進し、日常生活において安心して手話を用いることができる環境作りを推進してまいりたいと思います。

また、本市は、「東京オリンピック・パラリンピック」に向け、共生社会の実現を加速化させる自治体として、8月30日に東海3県で初の「共生社会ホストタウン」に認定されました。

「障がい者サポーター制度」や「バリアフリー観光」の取り組みなどを更に加速化させ、共生社会の実現に向け、引き続き、取り組んで参りたいと考えておりますので、ご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は、奈良ろう者劇団「大仏も笑う会」様による手話劇の公演をはじめ、NHK「みんなの手話」のキャスターとしてもおなじみの「早瀬 憲太郎」様による記念講演、午後からは、早瀬憲太郎様 監督作品の映画「ゆずり葉～君もまた次のきみへ～」の上映、また会場内においては、三重県聴覚障害者支援センターによる「センターまつり」が開催されるなど、盛りだくさんの企画で皆様のご来場をお待ちしておりました。

これらの企画をご堪能いただいたあとには、伊勢神宮御鎮座のまちとして栄え、神宮林や清流宮川などの豊かな自然や、先人たちが育んできた歴史や文化に富んだ伊勢市の街や食の魅力にもふれていただき、有意義な時間をお過ごしいただければ、開催地としましても大変喜ばしく思います。

結びにあたり、本日の手話劇祭の開催にあたりまして、特別協力いただきました「一般財団法人 全日本ろうあ連盟」様、また特別協賛として本事業に助成いただきました「日本財団」様のお力添えにあらためて感謝申し上げますとともに、本日ご来場いただきました皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、開催地代表の挨拶とさせていただきます。



来賓祝辞



一般財団法人全日本ろうあ連盟

石野 富志三郎 理事長 【手話による講演】

全国手話言語市区長会主催の「手話劇祭」がここ三重県伊勢市で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。2013年に鳥取県で手話言語条例が制定されて以降、手話言語の認知と理解は自治体の首長、関係者にも広がり、手話言語市区長会及び手話を広める知事の会が設立されました。現在では550を超える市町が貴会に加盟をされており、この結末は当連盟の「手話言語法制定推進事業」を進めるに大きな力となっています。

ここ伊勢市では2015年に「伊勢市手話言語条例」が制定され、手話言語の普及や、手話言語を使って安心して暮らすことができる共生社会の実現に向けて取り組みを進められていることと思います。そのような中、ここ伊勢市で「手話劇祭」の開催となり、多くの市民が手話言語に触れる機会を設けていただきましたことに感謝いたします。

本日公演される「奈良大仏も笑う会」は、聞こえる、聞こえないにかかわらず誰もが楽しめる演劇を目指して2000年から活動をされていると伺っています。また「手話から始まる新たな出会い」と題した早瀬憲太郎氏の記念講演もあり、いずれも、きっと市民にとって新鮮な感動を覚えていただけると確信しております。午後には当連盟創立60周年記念映画『ゆずり葉』の上映が予定されていますが、連盟は創立70周年記念事業として、東京オリンピック・パラリンピック開催を目前に控えた来年6月の上映を目指して、再び映画製作に着手しています。創立70周年記念映画は『咲む(えむ)』と題し、一人の若きろうの女性を通して、「手話言語」は魅力的で素晴らしい言語であること、さらにろう者独自の文化を人々に広く伝えていくことを目指しています。演劇や映画はろう者にとって情報保障が課題になりますが、本日の手話劇祭も連盟の映画も、そこに集う誰もが一緒に楽しむことができます。これこそが共生社会の実現のための一歩です。

結びに「手話劇祭」開催にあたり、ご尽力いただきました全国手話言語市区長会および伊勢市ほか、関係の皆様にも厚くお礼を申し上げますとともに、ご参集の皆様のますますのご健勝を祈念して私の挨拶といたします。



日本財団 尾形 武寿 理事長

第3回目となる全国手話言語市区長会手話劇祭が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

日本財団は、社会に存在する全ての課題を注視しておりますが、資源には限界があり、それら課題のいくつかを重点的に取り組んでおります。

例えば、「障がい者の工賃向上」、「障がい者への支援」がその重点的に取り組んでいる課題のうちの一つです。聴覚障がい者は、コミュニケーション手段が違うだけで、能力的には聴こえる人とは何ら変わりはありません。聴覚障がい者の支援は、コミュニケーション手段に対して支援することが重要であると考えています。

そのコミュニケーション手段のひとつが、電話リレーサービスです。6年ほど前からモデルプロジェクトとして取り組んでいる電話リレーサービスは、海難事故をきっかけに制度化に向かっております。その海難事故とは、三河湾沖で起きたもので、当時、乗組員全員が聴覚障がいのある人でしたが、電話リレーサービスのおかげで、全員が無事に一命を取り留めたというものでした。この海難事故を取り上げてくれた議員さんがおり、昨年11月に安倍総理が制度化することを答弁してくれました。1億総活躍を目指している日本では、このように支援の土壌さえ整備されていれば、たとえ障がいがあったとしても納税者へなれる人たちであります。

今回の手話劇祭も手話を広めていくために大切なイベントです。これからも手話の普及・啓発のため、継続して開催していただきたく思いますし、日本財団もできる限りの支援をしていきます。

全国手話言語市区長会の紹介



全国手話言語市区長会

事務局長

加藤 龍幸 石狩市長

【手話を使いながらの講演】

みなさん、こんにちは。ただいま、ご紹介をいただきました、北海道石狩市長の加藤です。今年から全国手話言語市区長会の事務局長を務めております。

本日はここ伊勢市において手話劇祭が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

全国手話言語市区長会は、手話言語条例や手話関連施策に関する情報交換と「手話言語法」や「情報コミュニケーション法」の制定を目指し、平成28年6月に設立されました。

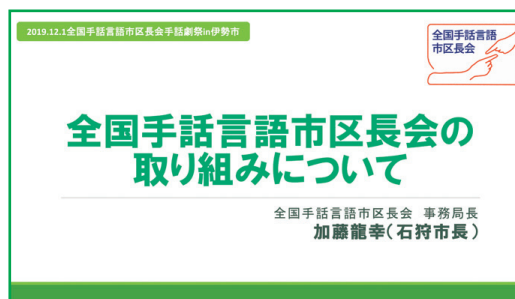
当会設立の背景ですが、2013年に鳥取県と石狩市で手話言語条例が制定されたこと、そして、全国すべての地方議会において、国に「手話言語法」の制定を求める意見書が採択されたことが大きなきっかけであったと思います。

当会設立の目的は3つあります。1つは、法律の早期制定。2つめは、手話言語条例の普及。そして3つめが手話関連施策の充実化。手話関連施策を充実するために、アンケートを実施し、会員相互が情報共有できるツールとして利用しています。会員市区の数ですが、設立当初は250。総会を重ねるごとに増加し、現在は568にまで広がっています。三重県は全14市のうち12市が加入しています。

手話に関する施策については、「手話を広める知事の会」とも協力しながら、多くの場面において全日本ろうあ連盟と一緒にあって取り組みを進めております。

全国手話言語市区長会の事業概要を説明します。メイン事業となるのが「手話劇祭」です。第1回目は北海道石狩市で、第2回目は福島県郡山市において開催しました。そして、第3回目を本日ここ伊勢市において開催します。当会では「手話を広める知事の会」との共催により、会員市区の職員を対象とした手話講習会や手話言語条例に関する学習会を開催しています。広報活動として、全日本ろうあ連盟のHPに当会のページを開設しております。イベント情報や会員一覧などを掲載していますので、ぜひご覧ください。このほか、全日本ろうあ連盟主催事業などに協力をしております。これまでに手話言語条例を制定した自治体は全国で287。条例制定の動きは、想像を超える速さで進んでいます。

手話は言語である。手話を通じたまちづくり、誰もが暮らしやすい社会を目指して、一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。



全国手話言語市区長会

手話言語条例や施策に関する情報交換、「手話言語法」等の制定を目指す

2016年6月発足 250市区が加盟

現会員数 568市区(11/29現在)

設立の目的

1. 法律の早期制定
 - ① 『手話言語法』
 - ② 『情報・コミュニケーション法』
2. 条例制定市区の拡大
3. 手話関連施策の充実



2016.6.8設立総会